

SEIKO

設置手順書

SmartCS

コンソールサーバー

NS-2260



第1版
2025年5月16日
U00150694701

セイコーソリューションズ株式会社

はじめに

このたびは NS-2260 コンソールサーバー (以下、本装置と呼びます) をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。

本装置を正しく安全にご使用いただくために、ご使用前に必ず本書をお読みください。また、いつでもお読みいただけるよう大切に保管しておいてください。

Copyright © 2025 セイコーソリューションズ株式会社

- セイコーソリューションズ株式会社の文書による許可なく、本書の全部または一部の複製、転載および改変などを行うことはできません。
- 本書の内容については将来予告なしに変更することがあります。
- 本書に記載された製品 (ソフトウェアを含む) の使用に起因する損失、逸失利益などの請求については、いかなる責任も負いかねます。
- 本書に記載された製品 (ソフトウェアを含む) は日本国内仕様であり、外国の規格などには準拠していません。外国において使用された場合、いかなる責任も負いかねます。
- 本書に従い、正しい取り扱いをしてください。

安全にお使いいただくために必ずお守りください

本書は、本装置を安全に正しくご使用いただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防ぐために、守っていただきたい事項を示しています。

内容をよく理解してから本文をお読みいただくようお願いいたします。

図記号と絵表示の意味

警告図記号と意味

| | | |
|---|-----------|--|
|  | 警告 | この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。 |
|  | 注意 | この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が障害を負う可能性が想定される内容、および物的損害だけの発生が想定される内容を示しています。 |

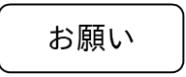
本体および説明書に使われる絵表示と意味

| | |
|---|--|
|  | この表示を無視して誤った取り扱いをすると、感電する「危険」があることを示します。 |
|  | この表示は、分解してはいけないという、「禁止」を示しています。 |
|  | この表示は、してはいけない、「禁止」行為であることを示します。 |
|  | この表示は、必ず実行していただきたい内容を示しています。 |
|  | この表示は、必ずアース線を接続していただきたいことを示しています。 |
|  | 全ての電源プラグを外すことを示します。 |

本体の表示記号

| | |
|---|------------|
|  | 交流電源を示します。 |
|---|------------|

説明書により使われることがある表示と図記号

| | | |
|---|----------------|---|
|  | お願い | この表示を無視して誤った取り扱いをすると、本商品の本来の性能を発揮できず、機能停止をまねく内容を示しています。 |
|  | !ワンポイント | この表示は本商品を取り扱う上で知っておくと便利な内容、もしくは間違いを防ぐ内容を示しています。 |

本書に記載された製品（ソフトウェアを含む）の使用に起因する損失、逸失利益などの請求については、いかなる責任も負いかねます。

上記の各表示と図記号は機器および説明書によって使用しない場合があります。

⚠ 警告



本装置の分解および改造を行わないでください。
火災・感電・故障の原因となります。



湿気の異常に多い場所や水などの液体がかかる場所では、絶対に使用しないでください。火災・
感電・故障の原因となります。



本装置の内部や隙間に、金属片を落としたり、水などの液体をこぼしたりしないでください。火
災・感電・故障の原因となります。



本装置の放熱口をふさがないでください。
火災・感電・故障の原因となります。
必ず、本書にて指定の設置空間を確保してください。



電源 OFF 時の日時情報保持のため、内部にはリチウム電池があります。
リチウム電池の交換は行わないでください。
破裂・発火・故障の原因となります。



電源ケーブルを傷つけたり、破損したり、加工したり、無理に曲げたり、引っ張ったり、ねじつ
たり、たばねたりしないでください。
火災・感電の原因となります。



電源ケーブルが傷んだ (芯線の露出、断線など) 状態のまま使用しないでください。
火災・感電の原因となります。



本装置や電源ケーブルに重いものを載せないでください。
火災・感電の原因となります。



本装置に内蔵されているヒューズの修理は行わないでください。
火災・感電・故障の原因となります。



ぬれた手で電源ケーブルを抜き差ししないでください。
感電の原因となります。

次のような場合は、すぐに電源を遮断してください。

そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。

- 異常音がしたとき
- 本装置が熱くなっているとき
- お手入れするときや異常時の処置を行うとき
- 煙が出たとき
- 異臭がするとき
- 本装置の内部に金属片、水、液体などの異物が入ったとき
- 本装置を落としたり、破損したりしたとき



本装置には 2 系統の電源があります。

メンテナンスの際は、2 系統の電源ケーブルを抜かないと感電の恐れがあります。

⚠ 注意

次のようなことは、絶対に行わないでください。



火災・感電・事故・故障の原因となります。

- 本装置の上に物を置かないでください。
- 本装置をたたくなどして、衝撃を与えないでください。
- ケーブルの上に物を載せたり、ケーブルをねじったり、強く引っ張ったりしないでください。

次のような場所には置かないでください。

火災・感電・故障の原因となります。



- 不安定な場所

- 直射日光の当たる場所

- 温度や湿度の変化が激しい場所

- ほこりの多い場所

- 振動のある場所

- 冷暖房機器の近く

- 他機器の排気口からの風が当たる場所



この機器は子供がいる可能性のある場所では使用しないでください。



必ず指定の電源電圧で使用してください。

火災・感電・事故・故障の原因となります。

次のことを必ずお守りください。火災・感電・事故・故障の原因となります。

- AC100Vで使用する場合は、必ず同梱のAC100V電源ケーブルを使用してください。

- AC100V以外で使用する場合は、同梱のAC100V電源ケーブルは使用せず、本書にて指定のAC電源ケーブルを準備してください。

- AC電源ケーブルの取り付け、取り外しをするときは、必ずプラグ部分を持って操作してください。ケーブルを持って操作した場合、ケーブル断線の原因となります。

- 本装置の近傍に電源コンセントがあり、容易に人がアクセスできるようにしてください。



本装置を移動させる場合や長期間ご使用にならないときは、必ず電源を遮断してください。火災・感電の原因となります。



ラックに取り付ける際は、必ず同梱のラックマウント用金具を使用してください。
けが・故障の原因となります。



本装置にはリチウム電池が内蔵されていますので、廃棄するときは地方自治体の条例または規則に従ってください。



AC電源ケーブルは必ず接地してください。

アース線は、水道管やガス管等につながず、必ずD種接地規格の工事がされているアースにつないでください。火災・感電・誤作動の原因となります。

取り扱い上のご注意

- 電源を OFF にする場合は、shutdown コマンドを実行してシステムソフトウェアを終了させ、コンソールに MON> プロンプトが表示されるのを確認するか、または本装置前面の STATUS2 ランプが点灯するのを待ってから、電源を OFF にしてください。
守らないと、本装置やメモリーカードの故障の原因となります。
- 本装置の電源を遮断した後、再度電源を起動する場合には、10 秒以上経過してから電源を起動してください。
あまりはやく電源を ON 状態にすると、正常に本装置がリセットされない場合があります。
- メモリーカードを取り扱う際は、以下の注意事項を守ってください。
守らないと、本装置やメモリーカードの故障の原因となります。
 - ACT ランプ点灯中はメモリーカードを抜かないでください。
点灯中にメモリーカードを抜いた場合は、本装置の動作の保証外になります。
 - メモリーカードの挿抜は、ACT ランプ消灯中または電源が OFF の状態で行ってください。
 - メモリーカードの端子部に、手や金属で直接触れないでください。
 - 市販のカードリーダーなどを使用して、メモリーカードに PC などからアクセスしないでください。
- RESET スイッチを押すときはボールペンの先など、先の細いもので押してください。
ただし、シャープペンシルは使用しないでください。シャープペンシルの芯が折れて中に入ると、故障の原因となります。
- 放熱口にほこり等の異物がたまつたときは取り除いてください。
取り除く際は、本装置内部に異物が入らないようにしてください。
定期的に清掃してください。
- 本装置の外装が汚れたときは、水で薄めた中性洗剤に柔らかい布を浸し、よくしぼってから拭き取り、さらに乾いた布で拭いてください。
ただし、コネクタ部を清掃したり、本装置を液体に浸したりしないでください。故障の原因になります。
- メモリーカードにはスライド SW があります。
SW の位置に関わらず、メモリーカードに書きを行います。

本書の使い方

- 本書は、NS-2260 コンソールサーバーの設置手順書です。
- 本書では、NS-2260 のハードウェア概要、ハードウェアの設置方法を記述します。
- NS-2260 関連の書物には、本書の他に「取扱説明書」「コマンドリファレンス」があります。
- 機能、使用方法などは、別冊の「取扱説明書」「コマンドリファレンス」を参照してください。

目次

| | |
|---|----|
| 第 1 章 各部の名称と説明 | 1 |
| 1.1 本体前面 (NS-2260-16, 32, 48) | 1 |
| 1.2 本体背面 (NS-2260-16, 32, 48) | 2 |
| 第 2 章 設置前の作業 | 3 |
| 2.1 設置環境の確認 | 3 |
| 2.2 設置空間の確保 | 4 |
| 2.3 供給電源の確認 | 5 |
| 第 3 章 設置作業 | 6 |
| 3.1 開梱 | 6 |
| 3.2 設置方法 | 7 |
| 3.3 ケーブル接続時の注意 | 9 |
| 3.4 CONSOLE ポートの接続 | 10 |
| 3.5 シリアルポートの接続 | 11 |
| 3.5.1 RJ45 コネクタ仕様の DTE 装置との接続 | 11 |
| 3.5.2 D-sub9 ピンコネクタ仕様の DTE 装置との接続 | 12 |
| 3.5.3 D-sub9 ピンコネクタ仕様の DCE 装置との接続 | 13 |
| 3.6 LAN ポートの接続 | 14 |
| 3.7 AC 電源の接続 | 15 |
| 3.7.1 AC 電源ケーブルの接続 | 16 |
| 3.8 電源の起動 | 18 |
| 3.9 電源の遮断 | 19 |
| 第 4 章 メモリーカードの交換 | 20 |
| 4.1 メモリーカードの取り外し | 20 |
| 4.2 メモリーカードの装着 | 20 |
| 第 5 章 ハードウェア仕様 | 21 |
| 5.1 仕様 | 21 |
| 5.2 諸元 | 22 |
| 5.3 外観 | 23 |
| 5.4 LAN ポート | 24 |
| 5.5 CONSOLE ポート | 25 |
| 5.6 シリアルポート | 26 |
| 5.7 CONSOLE ポートおよびシリアルポートの接続例 | 27 |
| 5.8 RJ45 コネクタ仕様の DTE 装置との結線例 | 28 |
| 5.9 NS-354 DB9-RJ45 変換コネクタ (同梱品) | 29 |
| 5.10 NS-491 DB9-RJ45 変換コネクタ (クロス) | 30 |

第1章 各部の名称と説明

1.1 本体前面 (NS-2260-16, 32, 48)

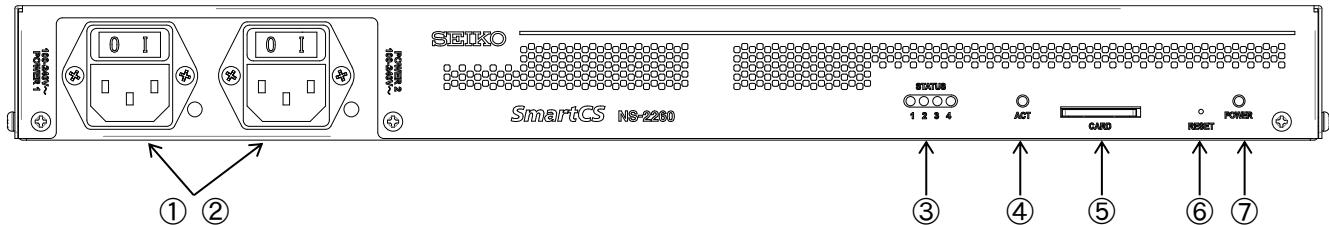


図 1-1 本体前面

① 電源スイッチ

本装置の電源を ON/OFF します。

| と表示されている側を押し込むと ON、○と表示されている側を押し込むと OFF になります。
電源を OFF にする場合は、shutdown コマンドを実行してシステムソフトウェアを終了させ、コンソールに MON>プロンプトが表示されるのを確認するか、または本装置前面の STATUS2 ランプが点灯するのを待ってから、電源を OFF にしてください。

② AC インレット [IEC60320 C14]

AC 電源ケーブル接続用です。二重化冗長運転が可能です。左側が電源 1、右側が電源 2 となります。
AC インレット右下の穴は電源ケーブル用クランプを取り付ける穴です。

③ STATUS ランプ

装置の状態表示用 LED です。

| 名称 | 色 | 機能 |
|-------------|---|---------------------|
| STATUS1 ランプ | 緑 | |
| STATUS2 ランプ | 緑 | ブートの状態を表示します。 |
| STATUS3 ランプ | 緑 | 詳しくは取扱説明書を参照してください。 |
| STATUS4 ランプ | 緑 | |

④ ACT ランプ

メモリーカードアクセス中に点灯します。

⑤ メモリーカードスロット

NS-2260 専用メモリーカードが装着されています。

メモリーカードには設定情報が保存されています。

⑥ リセットスイッチ

装置全体をリセットします。

⑦ POWER ランプ

電源が ON の時に点灯します。

1.2 本体背面 (NS-2260-16, 32, 48)

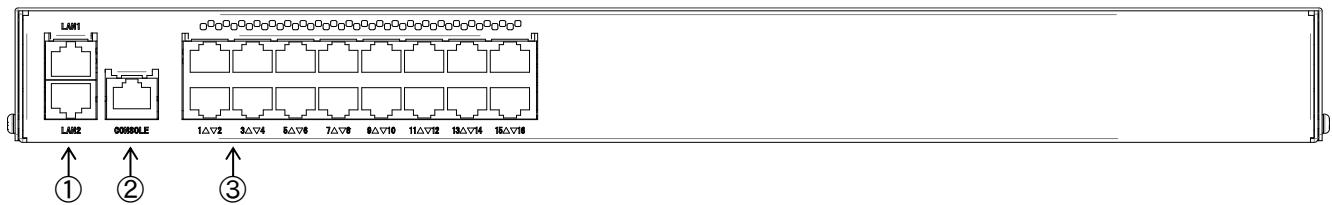


図 1-2 16 ポート本体背面

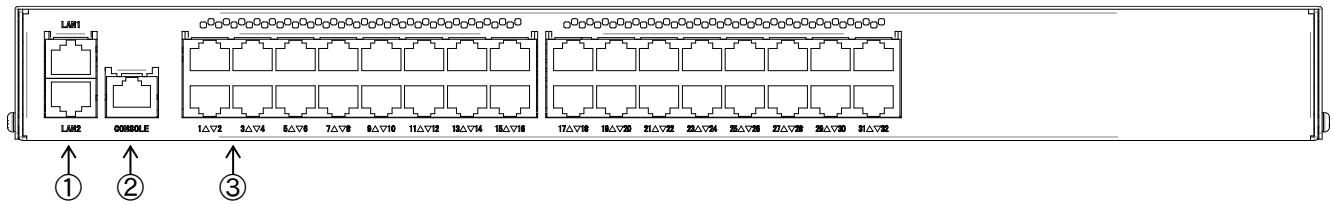


図 1-3 32 ポート本体背面

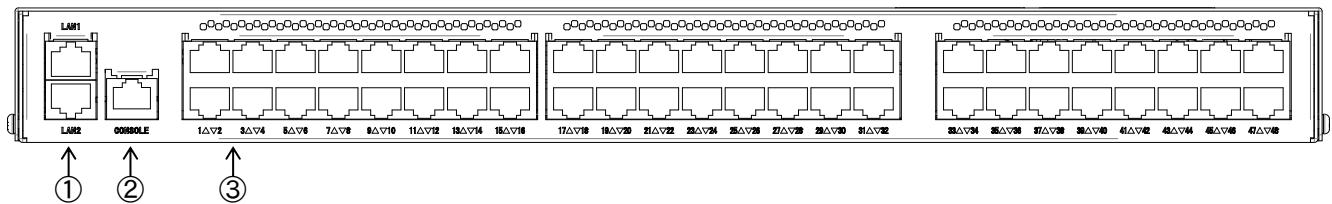


図 1-4 48 ポート本体背面

① LAN1, 2 ポート [RJ45 コネクタ]

LAN ポートです。10BASE-T/100BASE-TX/1000BASE-T に対応しています。

上側 : LAN1

下側 : LAN2

コネクタ上下の LED 点灯仕様は次のとおりです。

| 位置 | 色 | 状態 | 内容 |
|------------------|---|----|---------------------|
| 左側 (SPEED) | 緑 | 点灯 | 1000BASE-T |
| | | 消灯 | 10BASE-T/100BASE-TX |
| 右側 (LINK/ACT) | 緑 | 点灯 | リンクアップ |
| | | 点滅 | データ送受信中 |
| | | 消灯 | リンクダウン |

② CONSOLE ポート [RJ45 コネクタ]

コンソールポートとして使用します。

③ シリアルポート [RJ45 コネクタ]

監視対象機器との接続用ポートとして使用します。

コネクタ上下の LED 点灯仕様は次のとおりです。

| 位置 | 色 | 状態 | 内容 |
|------------|---|----|-------|
| 左側 (TX) | 緑 | 点滅 | データ送信 |
| 右側 (RX) | 緑 | 点滅 | データ受信 |

第2章 設置前の作業

本章では、本装置を設置するにあたり確認しなくてはならない条件など（設置環境、保守エリア、電源）について記述しています。

2.1 設置環境の確認

以下の警告および注意をお守りください。

|  警告 | |
|---|--|
|  | 湿気の異常に多い場所や水などの液体がかかる場所では、絶対に使用しないでください。火災・感電・故障の原因となります。 |
|  | 本装置の放熱口をふさがないでください。 火災・感電・故障の原因となります。 必ず、本書にて指定の設置空間を確保してください。 |

|  注意 | |
|---|--|
|  | 次のような場所には置かないでください。 火災・感電・故障の原因となります。 |

- 不安定な場所
- 直射日光の当たる場所
- 温度や湿度の変化が激しい場所
- ほこりの多い場所
- 振動のある場所
- 冷暖房機器の近く
- 他機器の排気口からの風が当たる場所

上記の警告と注意および下記の条件を考慮の上、設置場所を選んでください。

| 項目 | 条件 |
|------|--|
| 動作温度 | 5～40°C |
| 動作湿度 | 15～85%RH (ただし結露しないこと) |
| 保存温度 | -10～60°C |
| 保存湿度 | 90%RH 以下 (ただし結露しないこと) |
| 設置 | ケーブル接続部に無理な力がかかるないように、ケーブルを取り付ける空間を確保してください。 |

2.2 設置空間の確保

本装置を設置するときは、下記に示す設置空間を確保してください。
放熱口はふさがないでください。

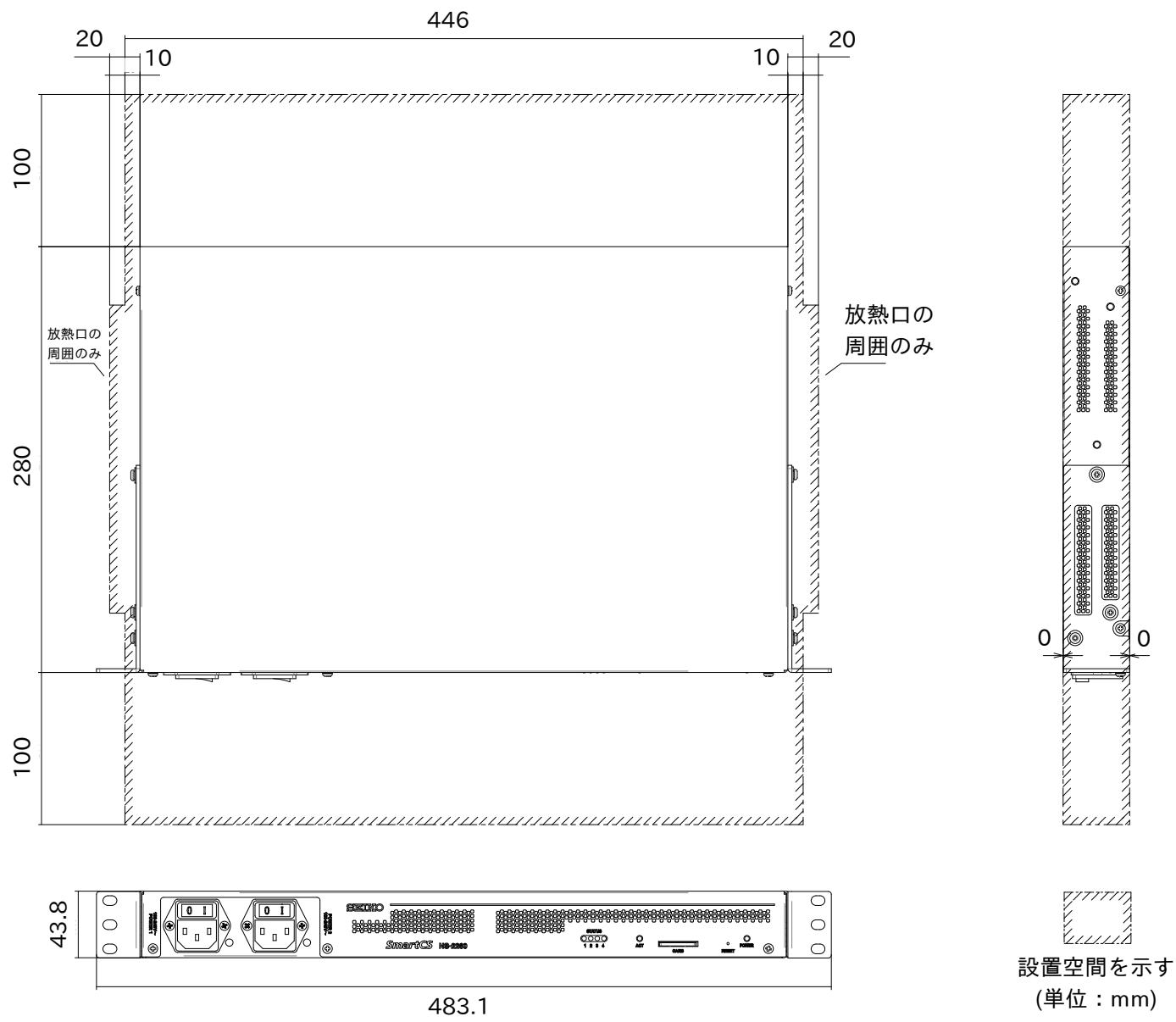


図 2-1 設置空間 (NS-2260-16, 32, 48)

2.3 供給電源の確認

供給電源（単相 AC100–240V）を確認してください。
アースは「D 種接地」されているものを使用してください。

⚠ 注意



必ず指定の電源電圧で使用してください。
火災・感電・事故・故障の原因となります。



AC 電源ケーブルは必ず接地してください。
アース線は、水道管やガス管等につながず、必ず D 種接地規格の工事がされているアースにつないでください。火災・感電・誤作動の原因となります。

第3章 設置作業

本章では、本装置を設置するにあたり守っていただく事項や作業内容について記述しています。

3.1 開梱

開梱しましたら、同梱の「はじめにお読みください」を参照し、梱包品が揃っているか確認してください。本装置を梱包材などより取り外すときは、必ず両手でお持ちください。
本装置は、滑り落ちたり、傾いたりしないような、机など安定した場所の上に置いてください。

⚠ 警告



本装置の分解および改造を行わないでください。
火災・感電・故障の原因となります。

⚠ 注意



次のようなことは、絶対に行わないでください。

火災・感電・事故・故障の原因となります。

- 本装置の上に物を置かないでください。
- 本装置をたたくなどして、衝撃を与えないでください。
- ケーブルの上に物を載せたり、ケーブルをねじったり、強く引っ張ったりしないでください。



次のような場所には置かないでください。

火災・感電・故障の原因となります。

- 不安定な場所
- 直射日光の当たる場所
- 温度や湿度の変化が激しい場所
- ほこりの多い場所
- 振動のある場所
- 冷暖房機器の近く
- 他機器の排気口からの風が当たる場所

3.2 設置方法

① 図 3-1 に示すように、M4 ネジ 6 本を使用しラックマウント用金具を本装置にしっかり取り付けてください。

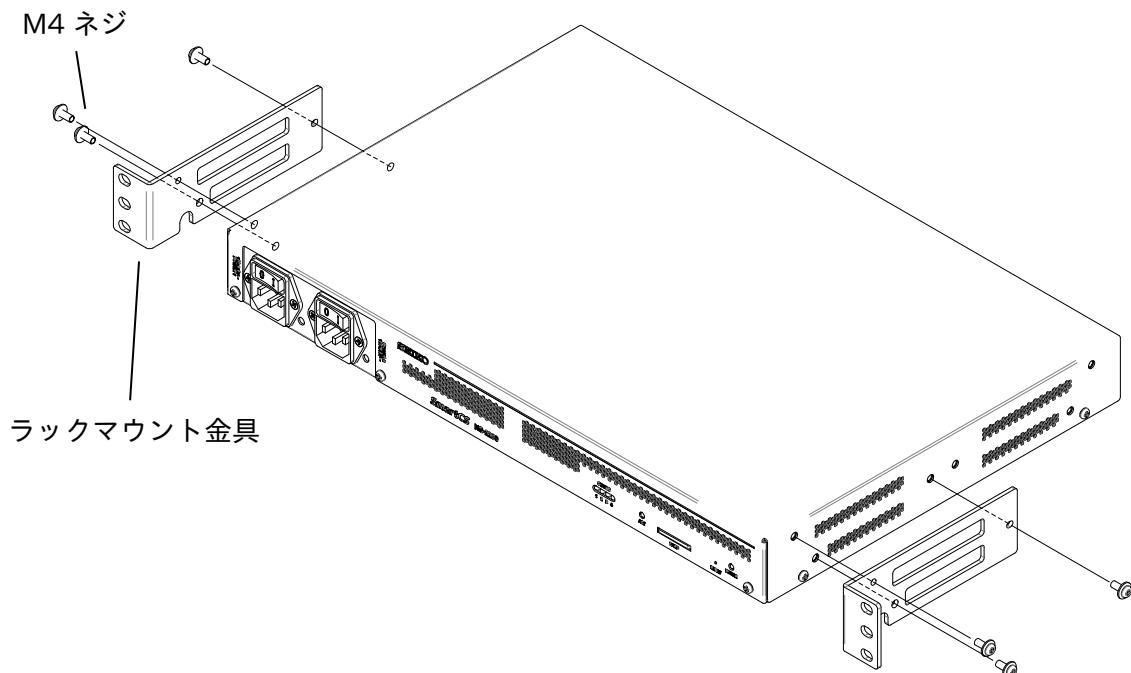


図 3-1 ラックマウント用金具の取り付け

② 本装置をラックに固定してください。

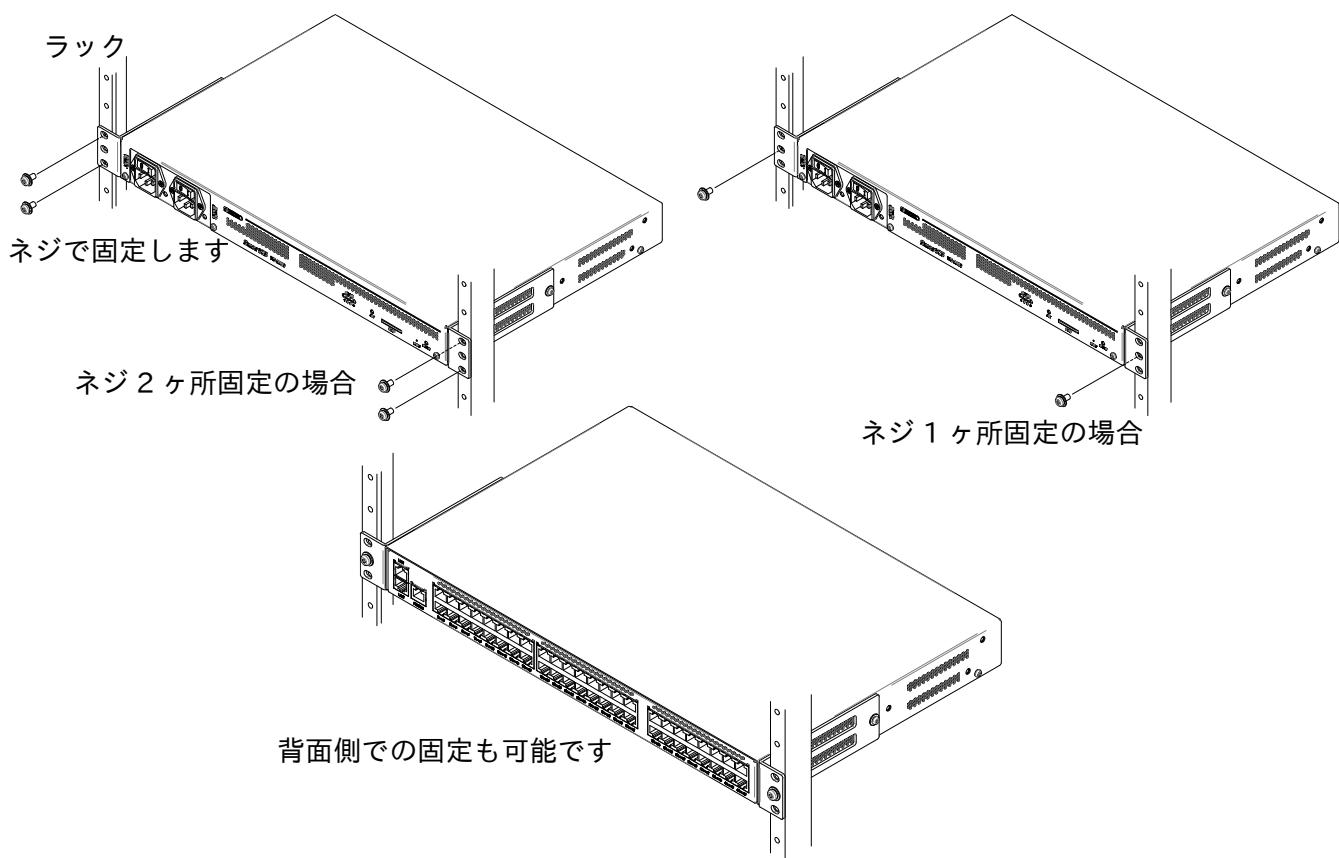


図 3-2 ラック取り付け完成図

注意

次のようなことは、絶対に行わないでください。

火災・感電・事故・故障の原因となります。



- 本装置の上に物を置かないでください。
- 本装置をたたくなどして、衝撃を与えないでください。
- ケーブルの上に物を載せたり、ケーブルをねじったり、強く引っ張ったりしないでください。

次のような場所には置かないでください。

火災・感電・故障の原因となります。



- 不安定な場所
- 直射日光の当たる場所
- 温度や湿度の変化が激しい場所
- ほこりの多い場所
- 振動のある場所
- 冷暖房機器の近く
- 他機器の排気口からの風が当たる場所



ラックに取り付ける際は、必ず同梱のラックマウント用金具を使用してください。
けが・故障の原因となります。



ネジは確実に締めてください。
本装置が落下して、けが・故障の原因となります。

3.3 ケーブル接続時の注意

次節以降の説明と「6.9 NS-354 DB9-RJ45 変換コネクタ」、「6.10 NS-491 DB9-RJ45 変換コネクタ」を参照して、本装置の各ポートの仕様と接続する相手装置の仕様を確認し、使用するインターフェイスケーブル、DB9-RJ45 変換コネクタを決めてください。

なお、本書では本装置への接続方法を中心に説明しています。接続する装置側の接続については、その装置の説明書などを参照してください。

電源ケーブルは最後に接続します。



接続機器との距離が遠い場合は、シリアルポートにケーブルを接続する際に、接続機器の電源ケーブルを外しておくことを推奨します。

3.4 CONSOLE ポートの接続

本装置のセットアップを行ったり、本装置のログ情報などのコンソールメッセージを出力させたりするポートです。

CONSOLE ポートは DTE タイプの仕様です。本装置のシリアルポートとは仕様が異なります。詳しくは、「6.5 CONSOLE ポート」をご覧ください。

CONSOLE ポートの仕様は次のとおりです。接続する端末の設定をこの仕様に合わせてください。

| 項目 | 仕様 |
|----------|------------------------|
| インターフェイス | RS-232 準拠 RJ45 |
| ボーレート | 9600bps (初期値) |
| データ長 | 8bit |
| パリティー | なし |
| ストップビット | 1bit |
| フロー制御 | XON/XOFF |
| 適合ケーブル | Cat5 以上の UTP ストレートケーブル |

お願い

CONSOLE ポートは LAN ポート (RJ45) と同じ RJ45 コネクタです。
誤って接続しないよう注意してください。

本装置の CONSOLE ポートとパソコンの COM ポートの接続手順は以下のとおりです。

- ① 同梱の「NS-354 DB9-RJ45 変換コネクタ」の D-sub9 ピンコネクタをパソコンの COM ポートに接続し、固定ネジを締めて固定します。
- ② UTP ケーブルを変換コネクタの RJ45 コネクタと本装置の CONSOLE ポートに接続します。UTP ケーブルは、差し込んだときに「カチッ」と音がしロックしたことを確認してください。ケーブルをはずす時は、コネクタレバーを押しながら引き抜きます。

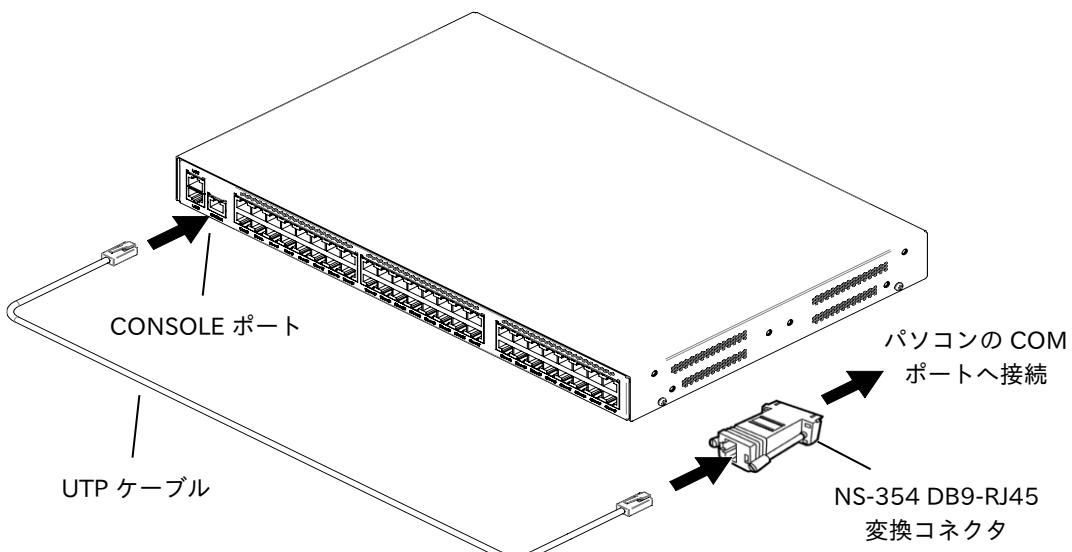


図 3-3 CONSOLE ポートの接続

CONSOLE を利用した操作の詳細は、「取扱説明書」を参照してください。

3.5 シリアルポートの接続

シリアルポートは DCE タイプの仕様です。本装置の CONSOLE ポートとは仕様が異なります。詳しくは、「6.6 シリアルポート」をご覧ください。

3.5.1 RJ45 コネクタ仕様の DTE 装置との接続

本装置と RJ45 コネクタ仕様の DTE 装置は、図 3-4 のように接続してください。

- ① UTP ケーブルを DTE 装置の RJ45 コネクタと本装置のシリアルポートに接続します。
- ② ケーブルは“カチッ”とロックされるまで差し込みます。
ケーブルをはずすときは、コネクタレバーを押しながら引き抜きます。

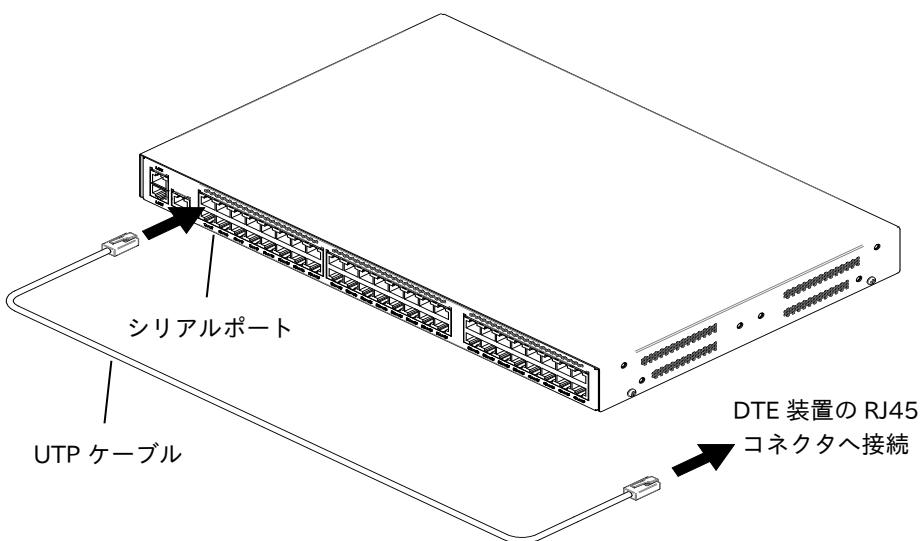


図 3-4 RJ45 コネクタ仕様の DTE 装置との接続

| | |
|---------|--|
| !ワンポイント | 接続する相手装置の RJ45 コネクタのピニアサインによっては、UTP ケーブルの結線を変更する必要があります。コネクタの仕様を必ず確認してご利用ください。 |
|---------|--|

3.5.2 D-sub9 ピンコネクタ仕様の DTE 装置との接続

本装置と D-sub9 ピンコネクタ仕様の DTE 装置は、図 3-5 のように接続してください。

- ① 別売りの「NS-491 DB9-RJ45 変換コネクタ（クロス）」を DTE 装置の D-sub 9 ピンコネクタに差し込み、固定ねじを締めて固定します。
- ② UTP ケーブルを変換コネクタの RJ45 コネクタと本装置のシリアルポートに接続します。
ケーブルは“カチッ”とロックされるまで差し込みます。
ケーブルをはずすときは、コネクタレバーを押しながら引き抜きます。

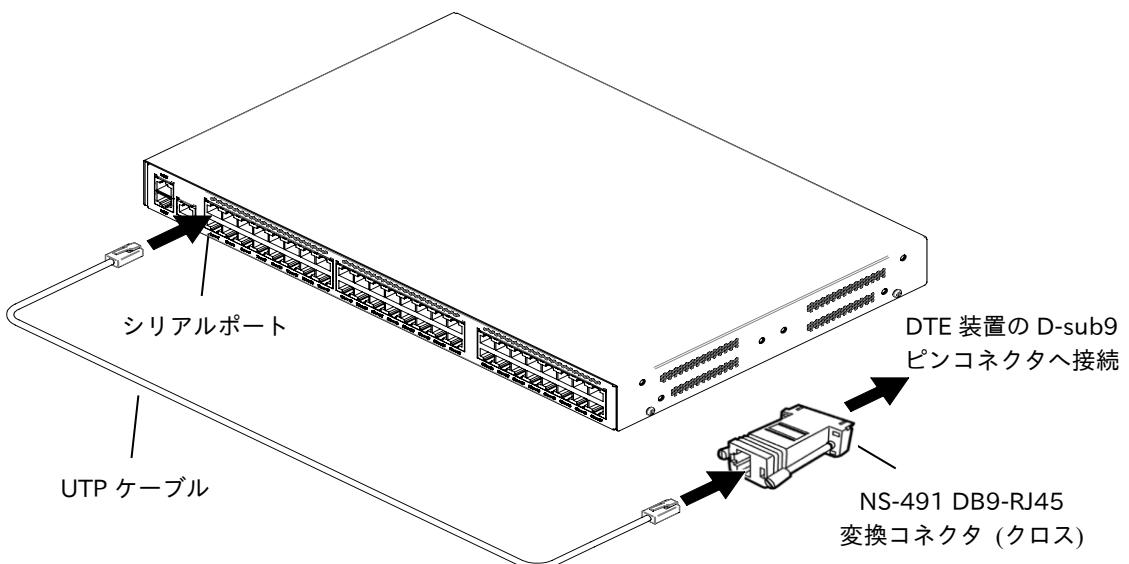


図 3-5 D-sub9 ピンコネクタ仕様の DTE 装置との接続

3.5.3 D-sub9 ピンコネクタ仕様の DCE 装置との接続

本装置と D-sub9 ピンコネクタ仕様の DCE 装置は、図 3-6 のように接続してください。

- ① 同梱の「NS-354 DB9-RJ45 変換コネクタ」を DCE 装置の D-sub 9 ピンコネクタに差し込み、固定ネジを締めて固定します。
- ② UTP ケーブルを変換コネクタの RJ45 コネクタと本装置のシリアルポートに接続します。
ケーブルは“カチッ”とロックされるまで差し込みます。
ケーブルをはずすときは、コネクタレバーを押しながら引き抜きます。

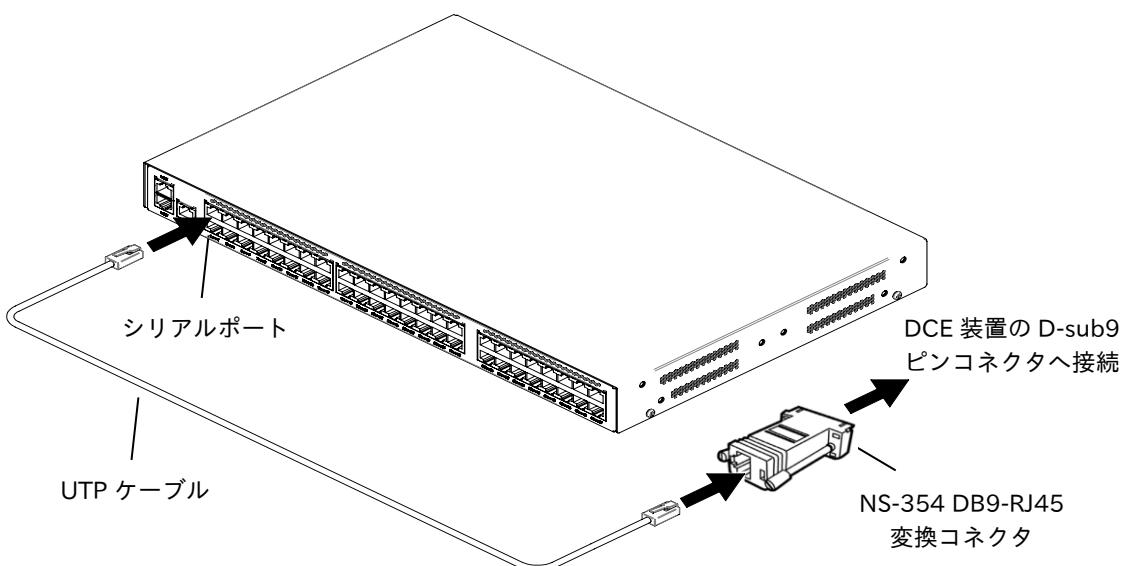


図 3-6 D-sub9 ピンコネクタ仕様の DCE 装置との接続

3.6 LAN ポートの接続

本装置の LAN ポートは、10BASE-T、100BASE-TX または 1000BASE-T のポートとして使用することができます。

LAN ポートの仕様については「5.4 LAN ポート」を参照してください。

UTP ケーブルを相手装置と本装置の LAN ポートに接続します。

UTP ケーブルは、差し込んだときに「カチッ」と音がしロックしたことを確認してください。

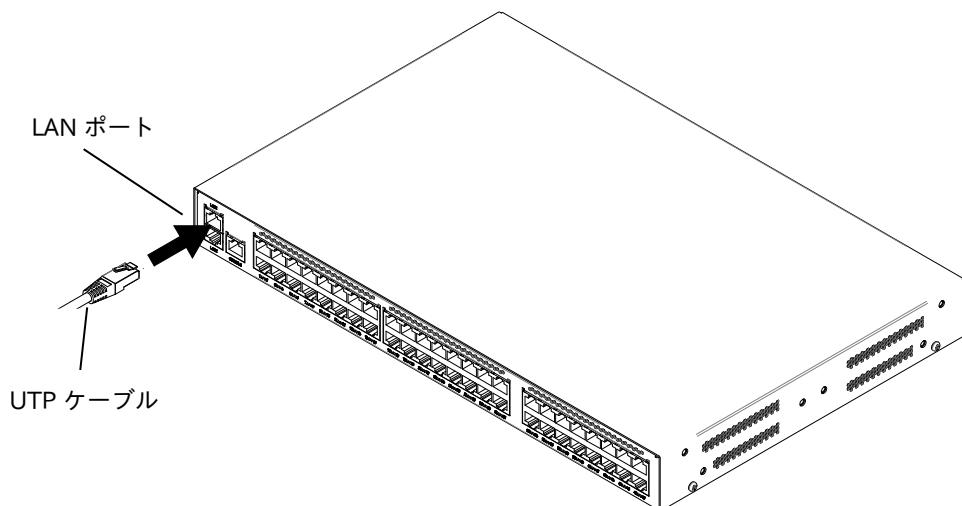


図 3-7 LAN ポートの接続

UTP ケーブルを外すときは、ケーブルのコネクタレバーを押しながら引き抜きます。

本装置を立ち上げると、10BASE-T/100BASE-TX/1000BASE-T の自動認識が行われ、リンクが確立すると LINK/ACT ランプが点灯し、1000BASE-T でリンクが確立した場合は同時に SPEED ランプも点灯します。また、データ送受信が行われると LINK/ACT ランプが点滅します。

10BASE-T/100BASE-TX のときは、SPEED ランプは消灯したままでです。

| | |
|-----|---|
| お願い | LAN ポートは CONSOLE ポートと同じ RJ45 コネクタです。 誤って接続しないよう注意してください。 |
| お願い | UTP ケーブルは同梱しておりません。 Cat5e 以上のストレートケーブルをお客様にて用意してください。 |

3.7 AC 電源の接続

AC 電源ケーブルを接続または抜去する際は、以下の警告および注意をお守りください。

|  警告 | |
|---|--|
|  | 電源ケーブルを傷つけたり、破損したり、加工したり、無理に曲げたり、引っ張ったり、ねじったり、たばねたりしないでください。 火災・感電の原因となります。 |
|  | 電源ケーブルが傷んだ（芯線の露出、断線など）状態のまま使用しないでください。 火災・感電の原因となります。 |
|  | 本装置や電源ケーブルに重いものを載せないでください。 火災・感電の原因となります。 |
|  | ぬれた手で電源ケーブルを抜き差ししないでください。 感電の原因となります。 |
|  | 本装置には 2 系統の電源があります。 メンテナンスの際は、2 系統の電源ケーブルを抜かないと感電の恐れがあります。 |

|  注意 | |
|--|--|
|  | 必ず指定の電源電圧で使用してください。 火災・感電・事故・故障の原因となります。 |
|  | 次のことを必ずお守りください。火災・感電・事故・故障の原因となります。 <ul style="list-style-type: none">AC100V で使用する場合は、必ず同梱の AC100V 電源ケーブルを使用してください。AC100V 以外で使用する場合は、同梱の AC100V 電源ケーブルは使用せず、本書にて指定の AC 電源ケーブルを準備してください。AC 電源ケーブルの取り付け、取り外しをするときは、必ずプラグ部分を持って操作してください。ケーブルを持って操作した場合、ケーブル断線の原因となります。本装置の近傍に電源コンセントがあり、容易に人がアクセスできるようにしてください。 |
|  | AC 電源ケーブルは必ず接地してください。 アース線は、水道管やガス管等につながず、必ず D 種接地規格の工事がされているアースにつないでください。火災・感電・誤作動の原因となります。 |

3.7.1 AC 電源ケーブルの接続

AC100Vで使用する場合は、同梱のAC100V電源ケーブルを本装置のAC インレットに接続します。AC100V以外で使用する場合は、次に示すAC電源ケーブルを準備してください。準備したAC電源ケーブルを本装置のAC インレットに接続します。

| 項目 | コネクタ (本装置側) | ケーブル | プラグ (コンセント側) |
|----|---|----------------------------|-----------------------------|
| 定格 | 250V 7A 以上 電気用品安全法取得品 | | |
| 形状 | IEC60320 C13  | 上記定格を満足する 3 芯ケーブルを使用してください | 設置環境のコンセント形状に合ったものを使用してください |

接続手順は以下のとおりです。

- ① 電源ケーブル用クランプを本装置に取り付けます。クランプ部のラッチを解除し、バンド部の先端寄りにずらします。電源ケーブル用クランプをAC インレット左下の穴に差し込んでください。

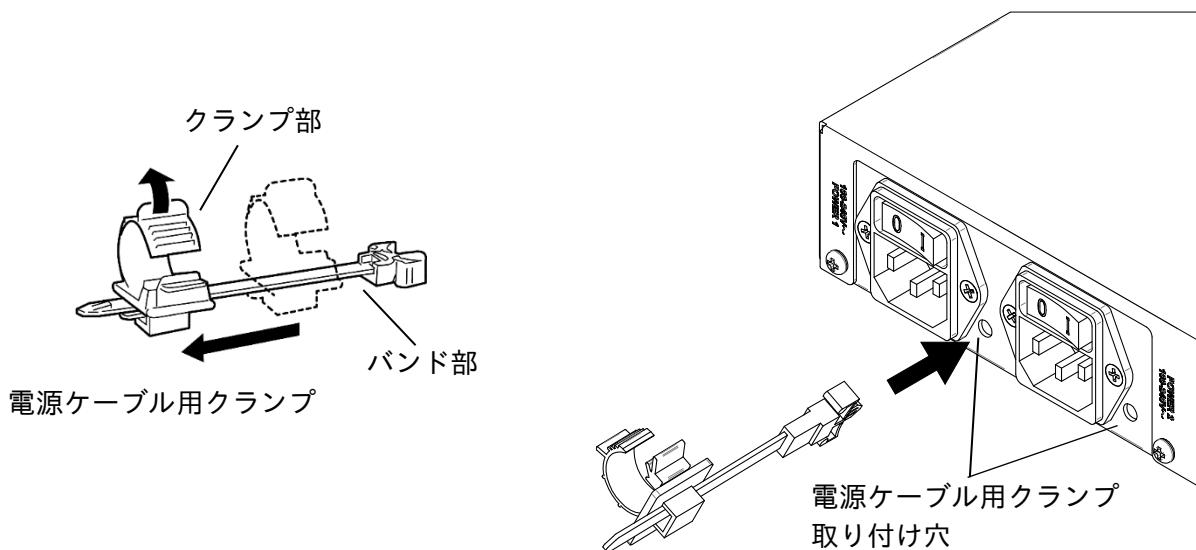


図 3-8 電源ケーブル用クランプの取り付け

- ② 電源スイッチ 1, 2 両方を OFF にします。
電源スイッチの○側を押し込んだ状態が OFF です。
- ③ AC 電源ケーブルを AC インレット 1, 2 に接続します。

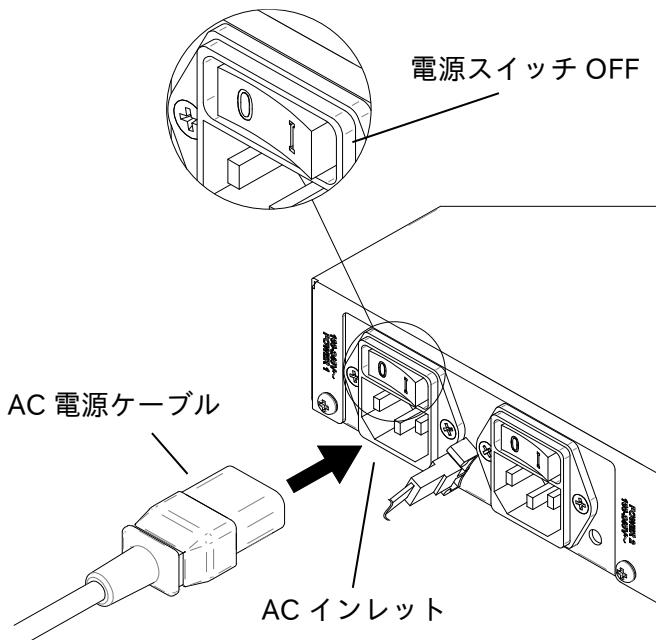


図 3-9 AC 電源ケーブルの接続

- ④ 電源ケーブル用クランプのクランプ部を AC 電源ケーブルのコネクタ付け根あたりに移動し、クランプ部を閉じて AC 電源ケーブルを固定します。

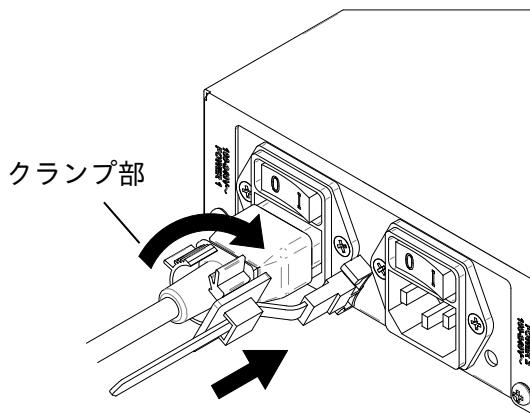


図 3-10 AC 電源ケーブルの固定

- ⑤ AC 電源ケーブルのプラグを 2 極接地付きコンセントに差し込みます。AC 電源ケーブルの接地線は、必ず接地極に接続してください。

3.8 電源の起動

電源スイッチを ON にして電源を起動すると POWER ランプが点灯します。

起動確認と初期設定については、「取扱説明書」を参照してください。

|  警告 | |
|---|--|
|  | 電源ケーブルを傷つけたり、破損したり、加工したり、無理に曲げたり、引っ張ったり、ねじったり、たばねたりしないでください。 火災・感電の原因となります。 |
|  | 電源ケーブルが傷んだ（芯線の露出、断線など）状態のまま使用しないでください。 火災・感電の原因となります。 |
|  | 本装置や電源ケーブルに重いものを載せないでください。 火災・感電の原因となります。 |
|  | ぬれた手で電源ケーブルを抜き差ししないでください。 感電の原因となります。 |
|  | 次のような場合は、すぐに電源を遮断してください。 そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。 <ul style="list-style-type: none">• 異常音がしたとき• 本装置が熱くなっているとき• お手入れするときや異常時の処置を行うとき• 煙が出たとき• 異臭がするとき• 本装置の内部に金属片、水、液体などの異物が入ったとき• 本装置を落としたり、破損したりしたとき |

|  注意 | |
|---|---|
|  | 必ず指定の電源電圧で使用してください。 火災・感電・事故・故障の原因となります。 |

3.9 電源の遮断

本装置の電源を遮断するには、シャットダウン処理の操作が必要となります。
シャットダウン操作については、「取扱説明書」を参照してください。

| ⚠ 警告 | |
|---|---|
|  | ぬれた手で電源ケーブルを抜き差ししないでください。 感電の原因となります。 |
|  | 本装置には 2 系統の電源があります。 メンテナンスの際は、2 系統の電源ケーブルを抜かないと感電の恐れがあります。 |

| ⚠ 注意 | |
|--|---|
|  | 本装置を移動させる場合や長期間ご使用にならないときは、必ず電源を遮断してください。火災・感電の原因となります。 |
|  | 次のことを必ずお守りください。火災・感電・事故・故障の原因となります。 <ul style="list-style-type: none">AC 電源ケーブルの取り付け、取り外しをするときは、必ずプラグ部分を持って操作してください。ケーブルを持って操作した場合、ケーブル断線の原因となります。本装置の近傍に電源コンセントがあり、容易に人がアクセスできるようにしてください。 |

| | |
|------------|---|
| お願い | シャットダウン処理の操作をせずに、動作中に電源を遮断しないでください。 故障の原因となります。 電源を遮断する場合は必ずシャットダウン処理の操作を行ってください。 |
| お願い | シャットダウン処理が完了するまで本装置の電源を決して切らないでください。 故障の原因となります。 |
| お願い | 本装置の電源を遮断した後、再度電源を起動する場合には、10 秒以上経過してから電源を起動してください。 正常に起動しない場合があります。 |

第4章 メモリーカードの交換

メモリーカードには設定情報が保存されています。

詳細な使用方法については「取扱説明書」を参照してください。

本装置のメモリーカードスロットはプッシュイン-プッシュアウト方式のイジェクト機構です。

以降の手順に従って交換してください。

| | |
|-----|---|
| お願い | <p>メモリーカードを取り扱う際は、以下の注意事項を守ってください。 守らないと、本装置やメモリーカードの故障の原因となります。</p> <ul style="list-style-type: none">• メモリーカードの挿抜は、ACT ランプ消灯中または電源が OFF の状態で行ってください。• ACT ランプ点灯中はメモリーカードを抜かないでください。• メモリーカードの端子部に、手や金属で直接触れないでください。• 市販のカードリーダーなどを使用して、メモリーカードに PC などからアクセスしないでください。 |
|-----|---|

4.1 メモリーカードの取り外し

- ① メモリーカードを指の爪などでメモリーカードスロットの奥に押し込んでください。
- ② 指を離すとメモリーカードがせり出しますので、指でつまみ引き抜いてください。

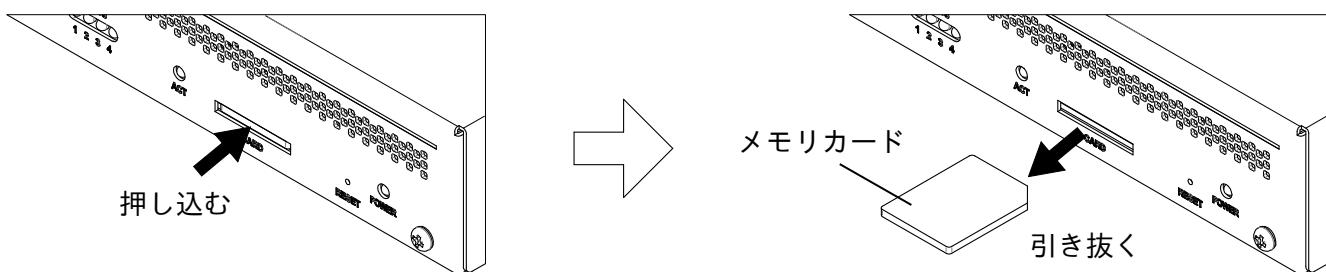


図 4-1 メモリーカードの取り外し

4.2 メモリーカードの装着

- ① メモリーカードのラベル面を上にしてメモリーカードスロットに挿入します。「カチッ」と音がするまで確実に押し込んでください。

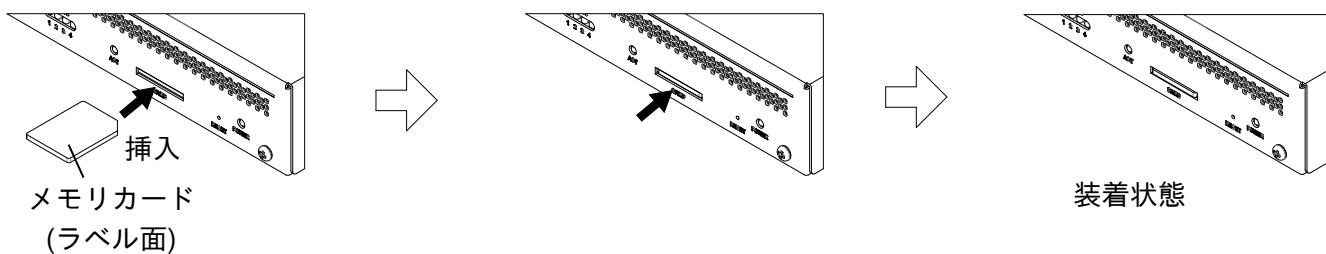


図 4-2 メモリーカードの装着

第5章 ハードウェア仕様

5.1 仕様

| 項目 | | 仕様 |
|-------------|------------|---|
| LAN ポート | コネクタ | RJ45 ×2 ポート |
| | I/F | 10BASE-T/100BASE-TX/1000BASE-T Auto-Negotiation 対応 Auto-MDI/MDI-X 対応 |
| CONSOLE ポート | コネクタ | RJ45 ×1 ポート |
| | I/F | RS-232 準拠 DTE 伝送速度: 2400, 4800, <u>9600</u> , 19200, 38400, 57600, 115200bps データ長: 7, <u>8</u> bit パリティー: 偶数, 奇数, <u>なし</u> ストップビット: 1, 2bit フロー制御: <u>XON/XOFF</u> , RTS/CTS, なし |
| シリアルポート | コネクタ | RJ45 ×16, 32, 48 ポート |
| | I/F | RS-232 準拠 DCE 伝送速度: 2400, 4800, <u>9600</u> , 19200, 38400, 57600, 115200bps データ長: 7, <u>8</u> bit パリティー: 偶数, 奇数, <u>なし</u> ストップビット: 1, 2bit フロー制御: <u>XON/XOFF</u> , RTS/CTS, なし |
| 表示部 | STATUS ランプ | 装置の状態を表示 |
| | ACT ランプ | メモリーカードのアクセス状態を表示 |
| | POWER ランプ | 電源の状態を表示 |
| 操作部 | リセットスイッチ | 装置全体リセット |

※工場出荷時の設定値は下線で表記しています。

5.2 諸元

NS-2260-16, 32, 48

| 項目 | 仕様 |
|-------|--|
| 定格電圧 | AC 100~240V ±10% |
| 定格周波数 | 50/60Hz ±3Hz |
| 定格電流 | 0.32A (AC100V 時) 0.18A (AC240V 時) |
| 消費電力 | 17W (最大) |
| 発熱量 | 14.7kJ/h (最大) |
| 環境条件 | 動作時 5~40°C, 15~85%RH (ただし結露しないこと) |
| | 保存時 -10~60°C, 90%RH 以下 (ただし結露しないこと) |
| 冷却方式 | 自然空冷 |
| 設置形態 | ラックマウント (縦型ラックには非対応) |
| 外形寸法 | 幅 426mm × 奥行き 280mm × 高さ 43.8mm (突起部を除く) |
| 質量 | 約 3.8kg |
| EMI | VCCI-A 適合 |

この装置は、クラス A 機器です。この装置を住宅環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。

VCCI-A

お願い

内蔵リチウム電池の交換作業は弊社が行いますので、弊社サービス窓口にご相談願います。

5.3 外観

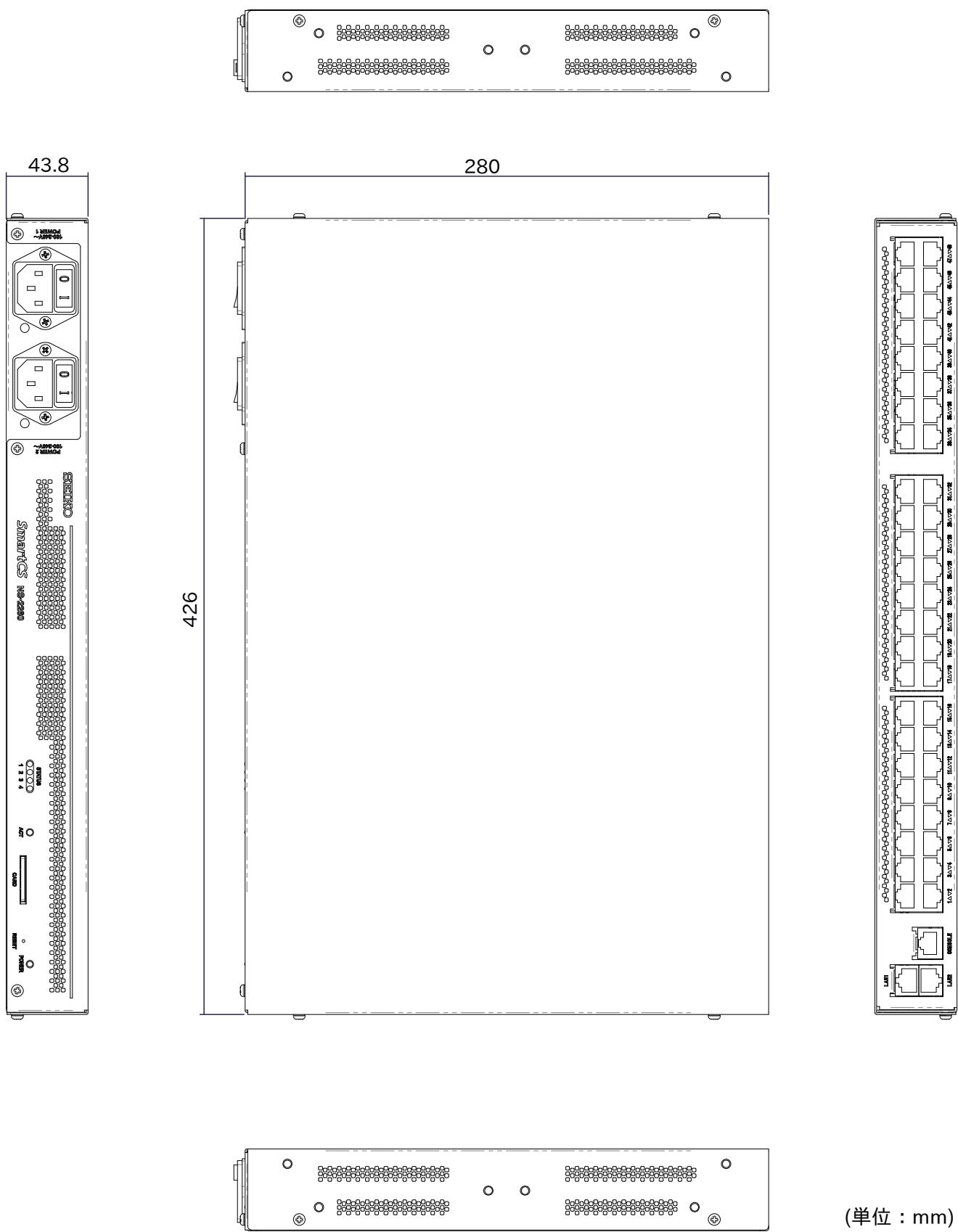


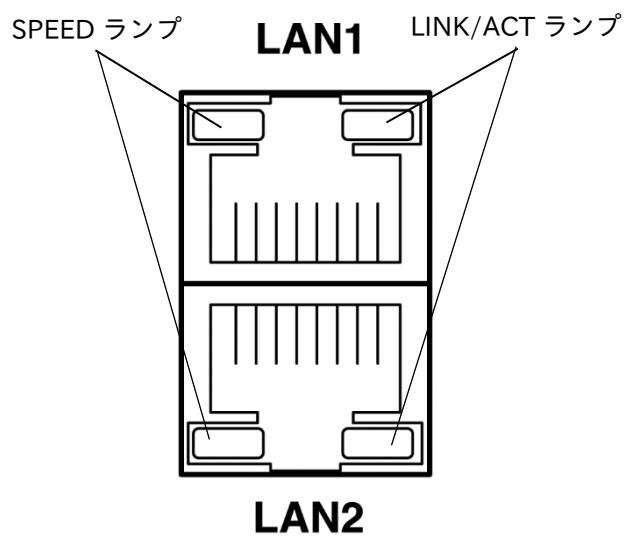
図 5-1 本体外形寸法

5.4 LAN ポート

10BASE-T/100BASE-TX/1000BASE-T ポートとして使用できます。
Auto-Negotiation および Auto-MDI/MDI-X をサポートしています。

LAN ポートの仕様を以下に示します。

| 項目 | 仕様 |
|------------------|--------------------------------------|
| インターフェイス | 10BASE-T 100BASE-TX 1000BASE-T |
| コネクタ | RJ45 ジャック |
| Auto-Negotiation | 有効 (出荷時) |
| Auto-MDI/MDI-X | 有効 |
| Duplex | Full / Half Duplex 対応 |
| ケーブル | カテゴリー5e 以上の UTP ケーブル |



8 ピン モジュラージャックコネクタ (RJ45)

図 5-2 LAN ポートのコネクタ

| ピン番号 | 10BASE-T/100BASE-TX | | 1000BASE-T | |
|------|---------------------|-------|------------|--------|
| | MDI | MDI-X | MDI | MDI-X |
| 1 | TD+ | RD+ | BI_DA+ | BI_DB+ |
| 2 | TD- | RD- | BI_DA- | BI_DB- |
| 3 | RD+ | TD+ | BI_DB+ | BI_DA+ |
| 4 | 未使用 | 未使用 | BI_DC+ | BI_DD+ |
| 5 | 未使用 | 未使用 | BI_DC- | BI_DD- |
| 6 | RD- | TD- | BI_DB- | BI_DA- |
| 7 | 未使用 | 未使用 | BI_DD+ | BI_DC+ |
| 8 | 未使用 | 未使用 | BI_DD- | BI_DC- |

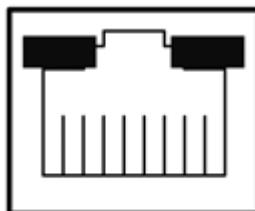
※1000BASE-T は双方向転送なので送信/受信の区別はありません。

5.5 CONSOLE ポート

CONSOLE ポートは RS-232 準拠の DTE タイプのポートです。

CONSOLE ポートの出荷時設定を以下に示します。

| 項目 | 仕様 |
|----------|------------------------|
| インターフェイス | RS-232 準拠 |
| コネクタ | RJ45 ジャック |
| ボーレート | 9600bps |
| データ長 | 8bit |
| パリティー | なし |
| ストップビット | 1bit |
| フロー制御 | XON/XOFF |
| 適合ケーブル | Cat5 以上の UTP ストレートケーブル |



CONSOLE

8 ピン モジュラージャックコネクタ (RJ45)

図 5-3 CONSOLE ポートのコネクタ

| ピン番号 | 信号の名称 | 信号の方向 | 信号の意味 |
|------|-------|-------|-----------------|
| 1 | RTS | 出力 | 送信要求 (注 1) |
| 2 | DTR | 出力 | データ端末レディ (注 2) |
| 3 | TXD | 出力 | 送信データ |
| 4 | GND | — | 信号用接地 |
| 5 | GND | — | 信号用接地 |
| 6 | RXD | 入力 | 受信データ |
| 7 | DSR | 入力 | データセットレディ (注 2) |
| 8 | CTS | 入力 | 送信可 (注 1) |

5.6 シリアルポート

シリアルポートは RS-232 準拠の DCE タイプのポートです。

シリアルポートの出荷時設定を以下に示します。

| 項目 | 仕様 |
|----------|------------------------|
| インターフェイス | RS-232 準拠 |
| コネクタ | RJ45 ジャック |
| ボーレート | 9600bps |
| データ長 | 8bit |
| パリティー | なし |
| ストップビット | 1bit |
| フロー制御 | なし |
| 適合ケーブル | Cat5 以上の UTP ストレートケーブル |

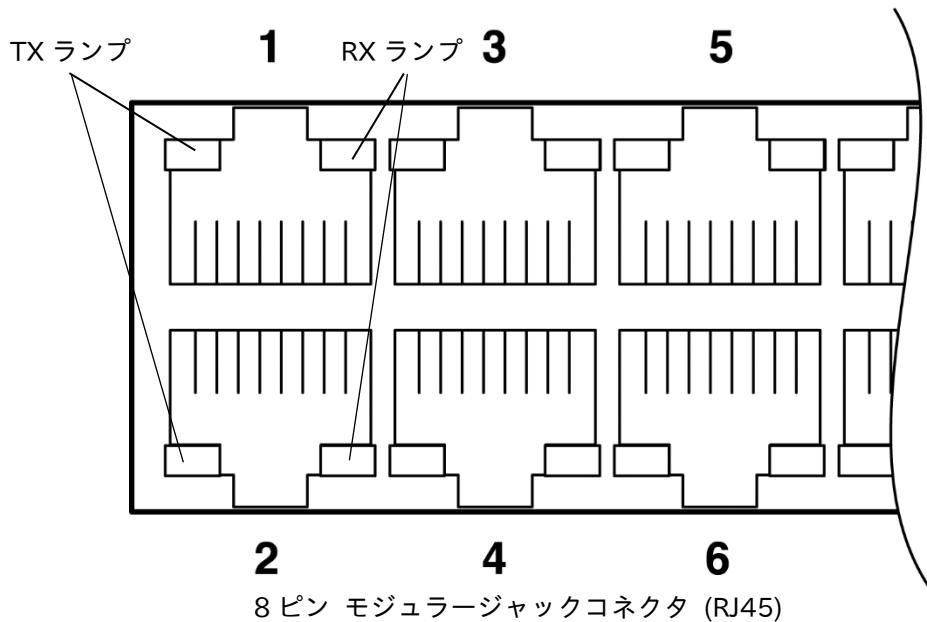


図 5-4 シリアルポートのコネクタ

| ピン番号 | 信号の名称 | 信号の方向 | 信号の意味 |
|------|-------|-------|-----------|
| 1 | CTS | 入力 | 送信可 |
| 2 | DSR | 入力 | データセットレディ |
| 3 | RXD | 入力 | 受信データ |
| 4 | GND | — | 信号用接地 |
| 5 | GND | — | 信号用接地 |
| 6 | TXD | 出力 | 送信データ |
| 7 | DTR | 出力 | データ端末レディ |
| 8 | RTS | 出力 | 送信要求 |

5.7 CONSOLE ポートおよびシリアルポートの接続例

本装置の CONSOLE ポートとシリアルポートは RJ45 コネクタ仕様です。また、CONSOLE ポートは DTE タイプ、シリアルポートは DCE タイプの仕様になっていますので、相手側装置の結線にあわせ、適切な変換コネクタやケーブルを使用して接続を行ってください。

図 5-5 に、CONSOLE ポートおよびシリアルポートの接続例を示します。

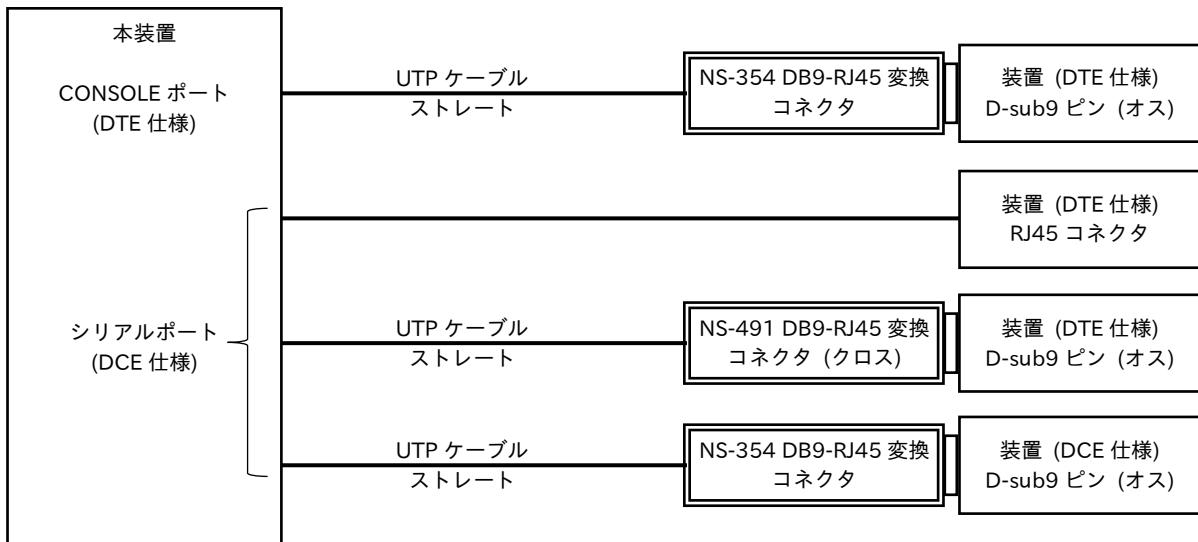


図 5-5 CONSOLE ポートおよびシリアルポートの接続例

5.8 RJ45 コネクタ仕様の DTE 装置との結線例

本装置のシリアルポートと RJ45 コネクタ仕様の DTE 装置との結線例を以下に示します。

| 本装置側(シリアルポート) RJ45 コネクタ | | 相手装置側 RJ45 コネクタ | |
|----------------------------|------|--------------------|-------|
| 信号の名称 | ピン番号 | ピン番号 | 信号の名称 |
| CTS | 1 | 1 | RTS |
| DSR | 2 | 2 | DTR |
| RXD | 3 | 3 | TXD |
| GND | 4 | 4 | GND |
| GND | 5 | 5 | GND |
| TXD | 6 | 6 | RXD |
| DTR | 7 | 7 | DSR |
| RTS | 8 | 8 | CTS |

図 5-6 RJ45 コネクタ仕様の DTE 装置との結線例

!ワンポイント

接続する相手装置の RJ45 コネクタのピンアサインによっては、UTP ケーブルの結線を変更する必要があります。コネクタの仕様を必ず確認してご利用ください。

5.9 NS-354 DB9-RJ45 変換コネクタ (同梱品)

「NS-354 DB9-RJ45 変換コネクタ」の仕様を以下に示します。

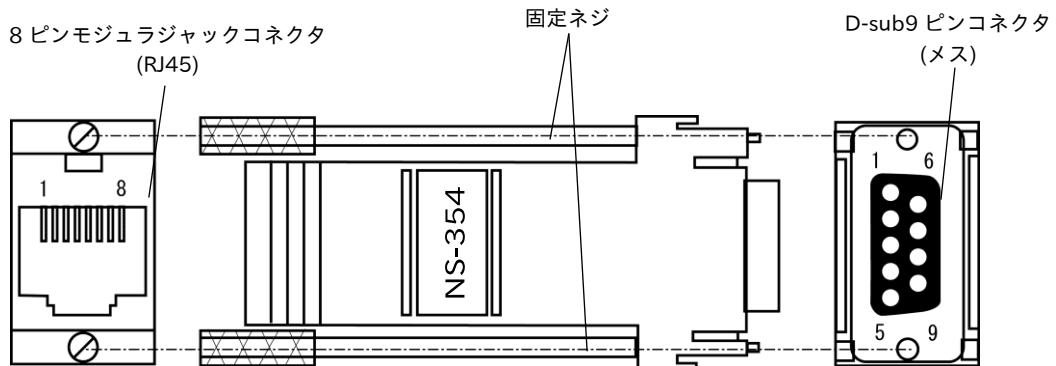


図 5-7 NS-354 DB9-RJ45 変換コネクタの外観

| RJ45 コネクタ | | D-sub9 ピンコネクタ | | | |
|-----------|---|---------------|-------|-------|-----------|
| ピン番号 | | ピン番号 | 信号の名称 | 信号の方向 | 信号の意味 |
| 1 | | 8 | CTS | 入力→ | 送信可 |
| 2 | | 6 | DSR | 入力→ | データセットレディ |
| 3 | | 2 | RXD | 入力→ | 受信データ |
| 4 | ● | 5 | GND | — | 信号用接地 |
| 5 | | 3 | TXD | 出力← | 送信データ |
| 6 | | 4 | DTR | 出力← | データ端末レディ |
| 7 | | 7 | RTS | 出力← | 送信要求 |
| 8 | | | | | |

図 5-8 NS-354 DB9-RJ45 変換コネクタの結線図

5.10 NS-491 DB9-RJ45 変換コネクタ (クロス)

オプションの「NS-491 DB9-RJ45 変換コネクタ (クロス)」の仕様を以下に示します。

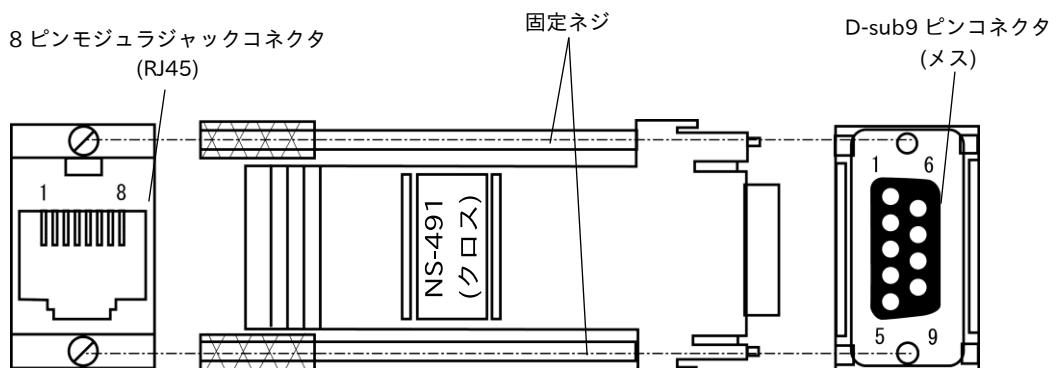


図 5-9 NS-491 DB9-RJ45 変換コネクタ (クロス)の外観

| RJ45 コネクタ | | D-sub9 ピンコネクタ | | | |
|-----------|---|---------------|-------|-------|-----------|
| ピン番号 | | ピン番号 | 信号の名称 | 信号の方向 | 信号の意味 |
| 1 | | 7 | RTS | 出力← | 送信要求 |
| 2 | | 4 | DTR | 出力← | データ端末レディ |
| 3 | | 3 | TXD | 出力← | 送信データ |
| 4 | | 5 | GND | — | 信号用接地 |
| 5 | | 2 | RXD | 入力→ | 受信データ |
| 6 | | 6 | DSR | 入力→ | データセットレディ |
| 7 | ● | 1 | DCD | 入力→ | キャリア検出 |
| 8 | | 8 | CTS | 入力→ | 送信可 |

図 5-10 NS-491 DB9-RJ45 変換コネクタ (クロス)の結線図

SEIKO

セイコーソリューションズ株式会社
〒261-8507 千葉県千葉市美浜区中瀬 1-8
support@seiko-sol.co.jp